

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	22-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Liver holidays? A meta-analysis of drinking the same amount of alcohol daily or non-daily and the risk for cirrhosis 休肝日? 日常または非日常の同量の飲酒と肝硬変リスクのメタ解析		
執筆者		
Llamosas-Falcón L, Tran A, Jiang H, Rehm J.		
掲載誌		
Drug Alcohol Rev. 2023 Jan;42(1):119-124. doi: 10.1111/dar.13563.		
キーワード		PMID
アルコール, 日常飲酒, 疫学, 肝硬変, メタアナリシス		36274528
要 旨		
<p>目的: 多くの飲酒ガイドラインが、肝臓への悪影響とアルコール使用障害の発症を避けるために日常的な飲酒は避けるべきとしている。しかし肝疾患に関するほとんどの研究は、飲酒量と頻度を区別していないため、これを裏付ける証拠は不足している。本レビューの目的は、日常飲酒と非日常飲酒を比較し、肝硬変との関連を検討することである。</p> <p>方法: PubMed/Medline および Embase のデータベースを用いて、各データベースの収載開始から 2021 年 10 月 12 日までの該当文献のレビューを行った。検索は「飲酒」「肝硬変」「観察研究」に関する米国国立医学図書館が定める生命科学用語 (MeSH) とキーワードを組み合わせて行った。縦断研究または症例対照研究の査読付き論文を対象とした。アウトカムは肝硬変罹患 and/or 死亡率とした。日常飲酒と非日常飲酒の比較を、飲酒量で調整したオッズ比または相対リスク (RR) として、95%信頼区間 (CI) とともに報告している論文を選択した。研究の質は、Cochrane Risk of Bias Tool を用いて評価した。ランダム効果メタアナリシスを用いて、1 日当たりの飲酒の RR と 95%CI を算出した。</p> <p>結果: 組み入れ基準を満たした 5 件の大規模研究が検索され、その質は平均して中程度であった。すべてコホート研究で、平均追跡期間は 9.5 年から 21 年であった。日常飲酒は非日常飲酒と比較して肝硬変リスクの有意な上昇と関連しており、プールされた RR は男性で 1.71 (95%CI 1.23-2.23, $p < 0.001$)、女性で 1.56 (95%CI 1.39-1.74, $p < 0.001$) であった。</p> <p>結論: 同じ飲酒量であれば、毎日飲酒する人はそうでない人に比べ、男女ともに肝硬変のリスクが高いことがわかった。アルコール使用障害や肝硬変リスクがある多量飲酒者には、飲酒しない休肝日を推奨すべきである。</p>		